



# 2021年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Dec.15<sup>th</sup>.2021

## 1 2021年10月期 決算の概況

---

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

## 2 2022年10月期 業績見通し

---

- 見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

## 3 長期ビジョン2035 中期経営計画の修正

---

- 策定の背景および概要(長期ビジョン2035)
- コーポレート・メッセージ
- オハラの価値創造モデル
- オハラの技術の可能性
- サステナビリティ基本方針
- 修正の背景および概要(中期経営計画)
- 長期ビジョンと中期経営計画の位置付け
- 財務指標(中期経営計画 Phase1)



# CONTENTS

# 2021年10月期 決算の概況

売上高は光学ガラスや極低膨張ガラスの販売増加などにより増収  
損益は稼働率の上昇、減価償却費の減少などにより改善

- デジタルカメラ市場は、新型コロナウイルス感染症の影響で急減した前期の反動に加え、ミラーレスカメラ向け交換レンズのラインナップ拡充により堅調に推移
- 露光装置市場は、半導体露光装置、FPD露光装置ともに堅調に推移

## 外部環境

- 売上高は、ミラーレスカメラ向けを中心とした光学ガラスの需要増や半導体露光装置、FPD露光装置向けガラスの需要増により増収
- 営業損益は稼働率の上昇、減価償却費や販管費の減少などにより改善

## 当社業績

- 21/10期1Qより、新基幹システムの稼働に伴い一部の費用の配賦方法を変更  
20/10期のセグメント利益は変更後の測定方法により記載

- 前年通期のセグメント利益への影響額は光事業が2千2百万円の増加、エレクトロニクス事業が2千2百万円の減少

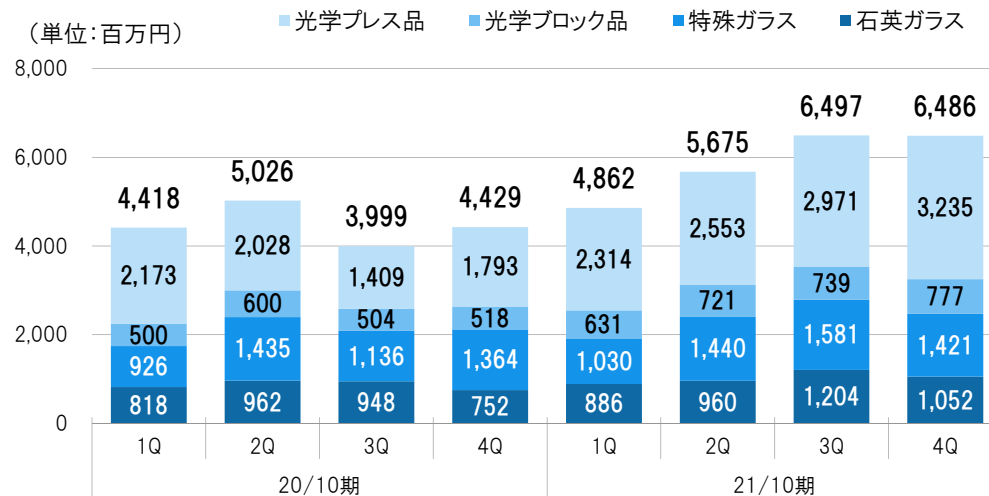
## セグメント利益の

## 測定方法変更

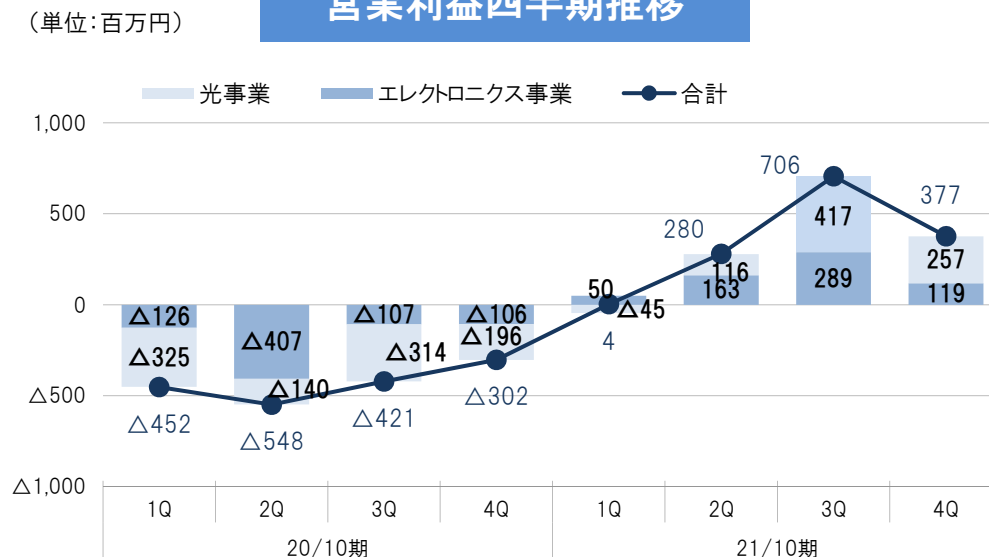
(単位:百万円、%)

	20/10期 通期	21/10期 通期	増減 増減率
売上高	17,873	23,521	5,648 31.6%
営業利益	△1,724	1,368	3,092
[営業利益率]	△9.6%	5.8%	—
経常利益	△1,319	1,733	3,052
[経常利益率]	△7.4%	7.4%	—
純利益 (親会社株主に帰属)	△4,243	1,460	5,703
[純利益率]	△23.7%	6.2%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 107.61 121.18	期中平均 108.22 129.15	

## 売上高四半期推移



## 営業利益四半期推移



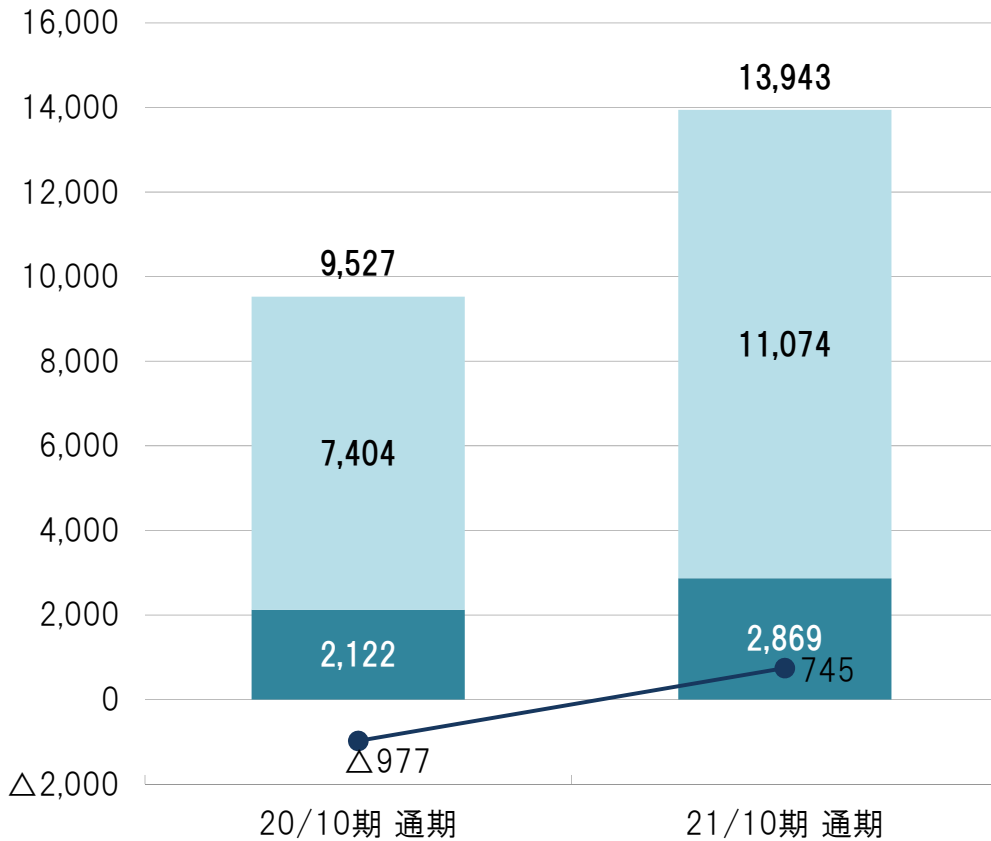
※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

Copyright© 2021 OHARA INC. All Rights Reserved.

## 通期対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

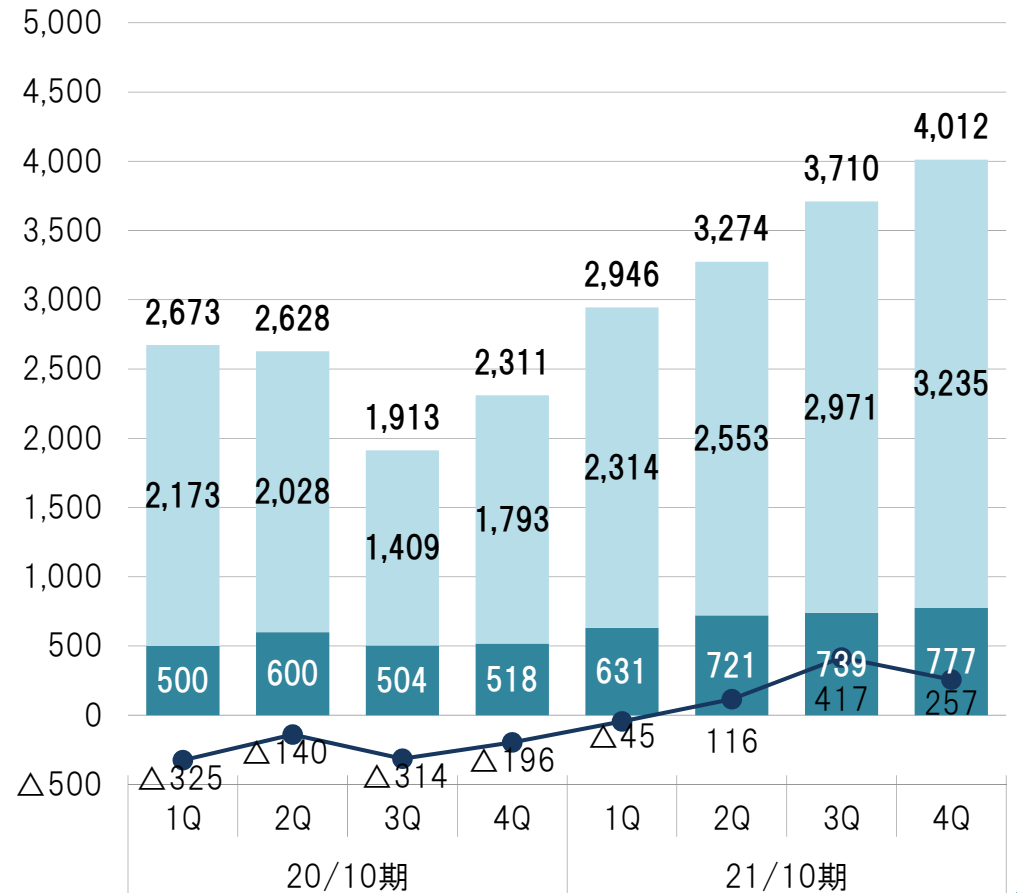


※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

## 四半期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

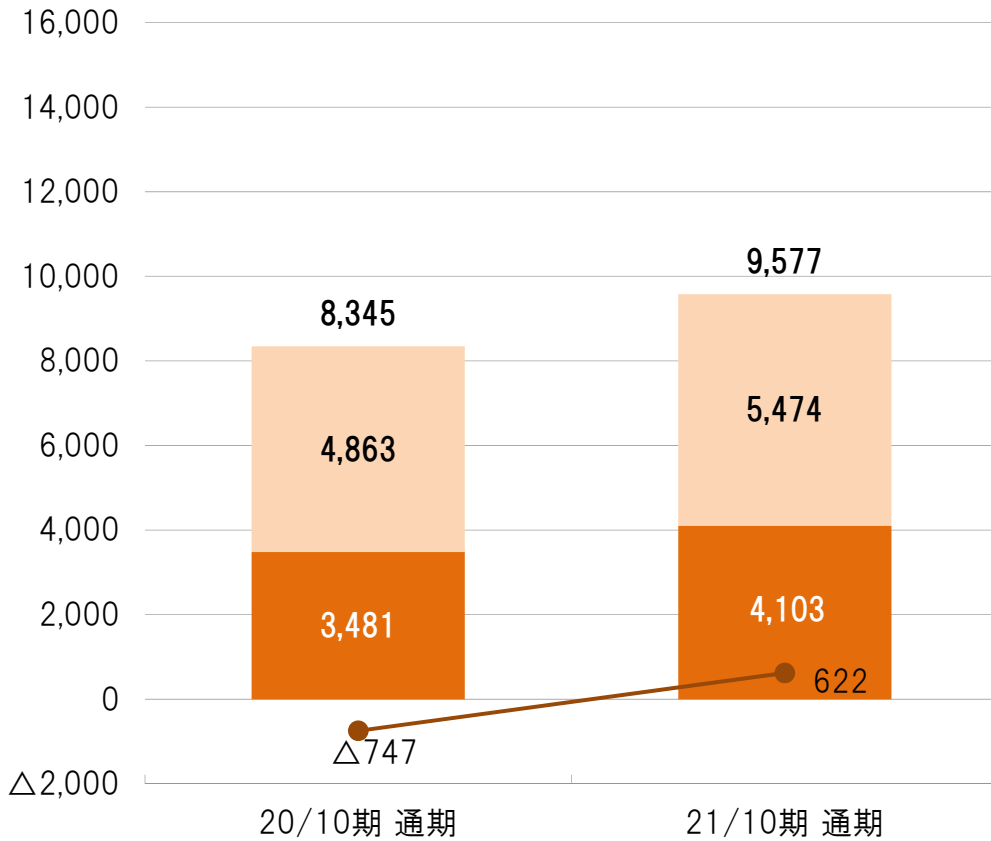


※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

## 通期対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)

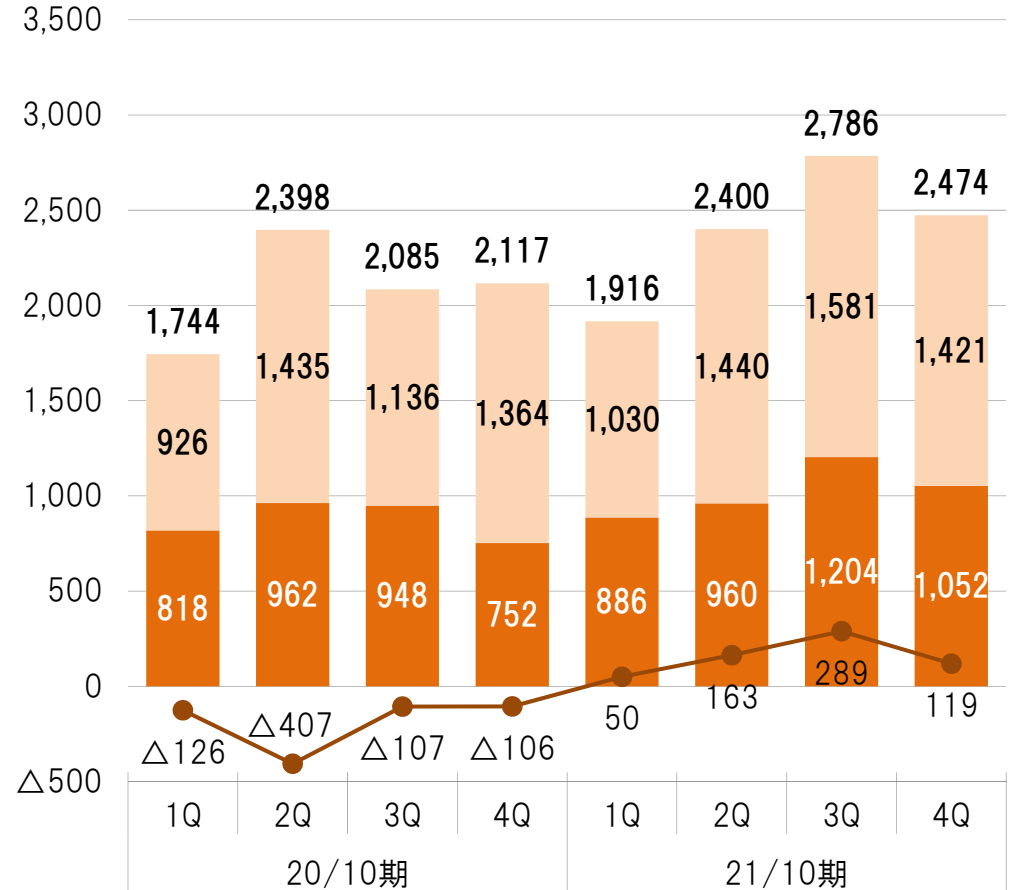


※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

## 四半期推移

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)



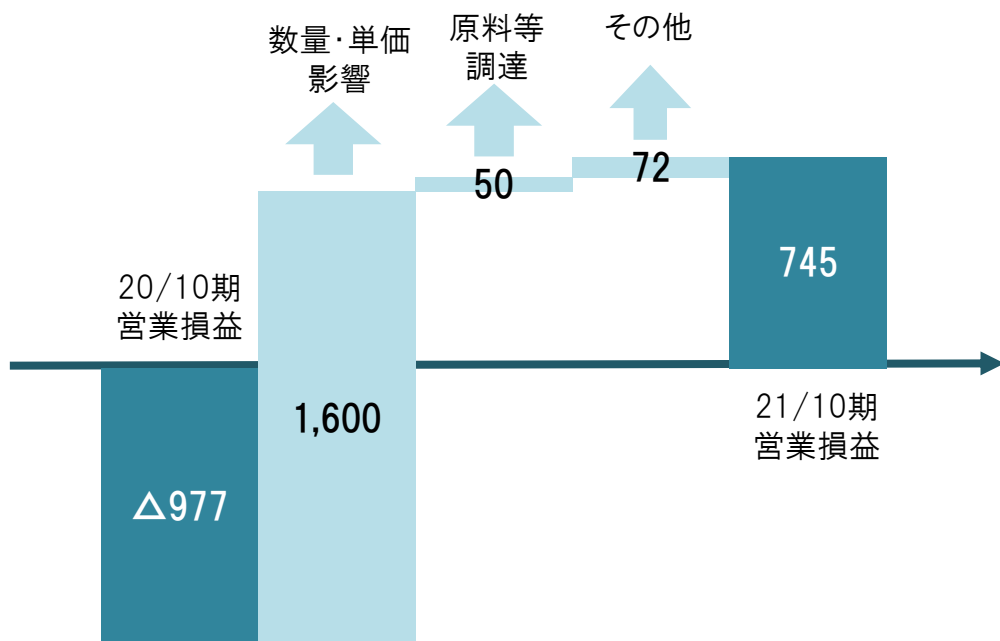
※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

Copyright© 2021 OHARA INC. All Rights Reserved.

# 営業損益増減要因

## 光事業

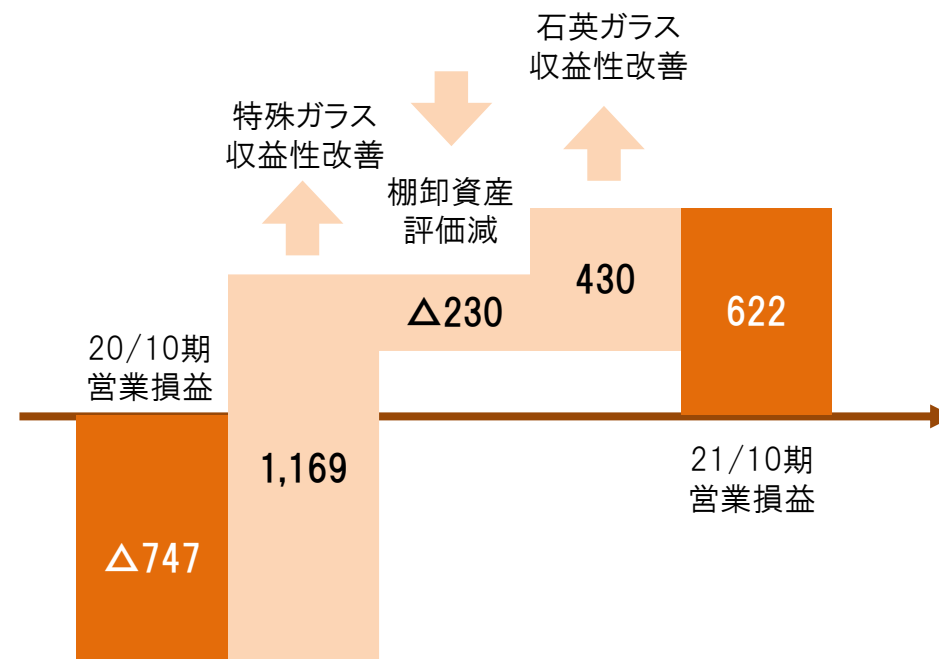
(単位:百万円)



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

## エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております



## 営業CF増減主要因

(単位:百万円)

税金等調整前純利益	1,863
仕入債務の増加による収入	735
減価償却費	1,282
売上債権の増加による支出	△2,812

## 投資CF増減主要因

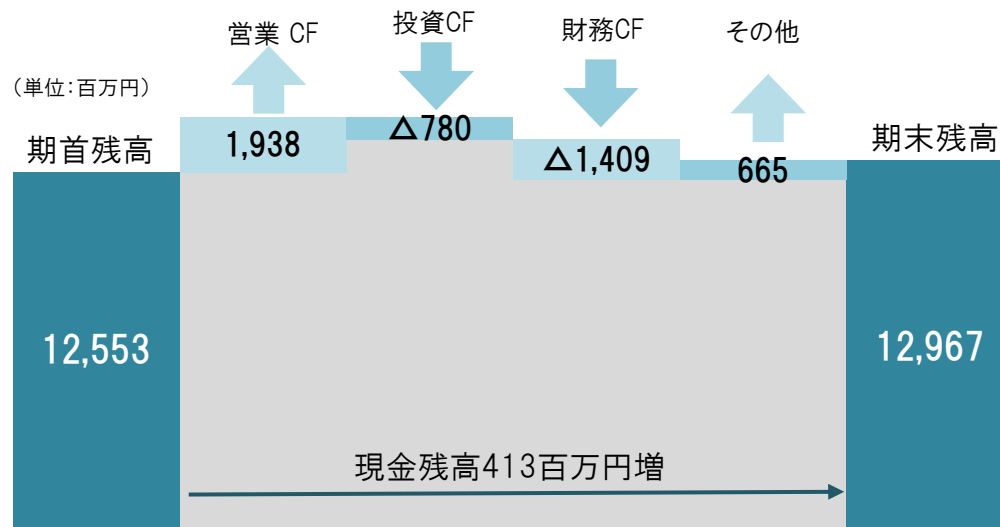
(単位:百万円)

有形固定資産の取得	△803
-----------	------

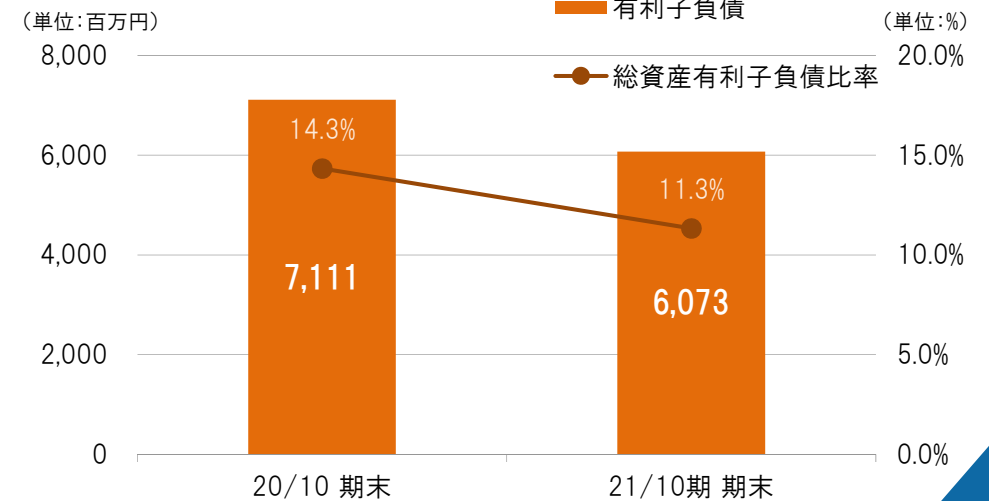
## 財務CF増減主要因

(単位:百万円)

有利子負債の減少	△834
配当金	△244



## 有利子負債

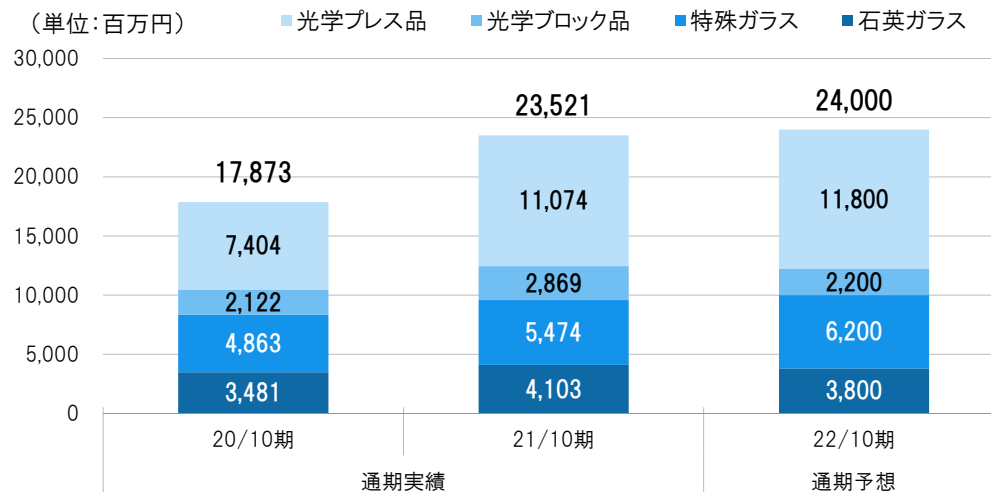


# 2022年10月期 業績見通し

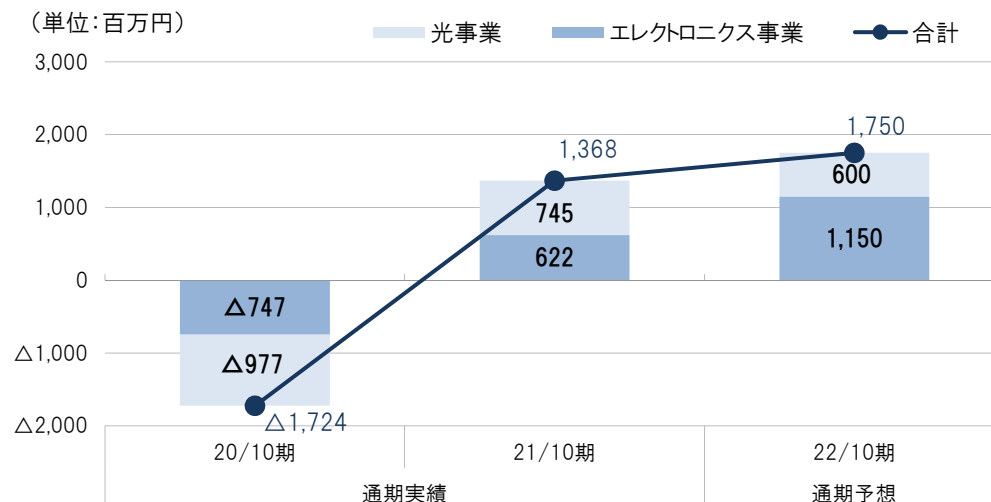
(単位:百万円、%)

	21/10期 通期	22/10期 通期予想	増減 増減率	22/10期 上期予想
売上高	23,521	24,000	478 2.0%	11,800
営業利益	1,368	1,750	381	800
[営業利益率]	5.8%	7.3%	27.9%	6.8%
経常利益	1,733	1,850	116	850
[経常利益率]	7.4%	7.7%	6.7%	7.2%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,460	1,400	△60	600
[純利益率]	6.2%	5.8%	△4.1%	5.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 108.22 129.15	期中平均 110.00 130.00		
年間配当金 (円)	15.0	15.0		

## 売上高内訳



## 営業利益内訳



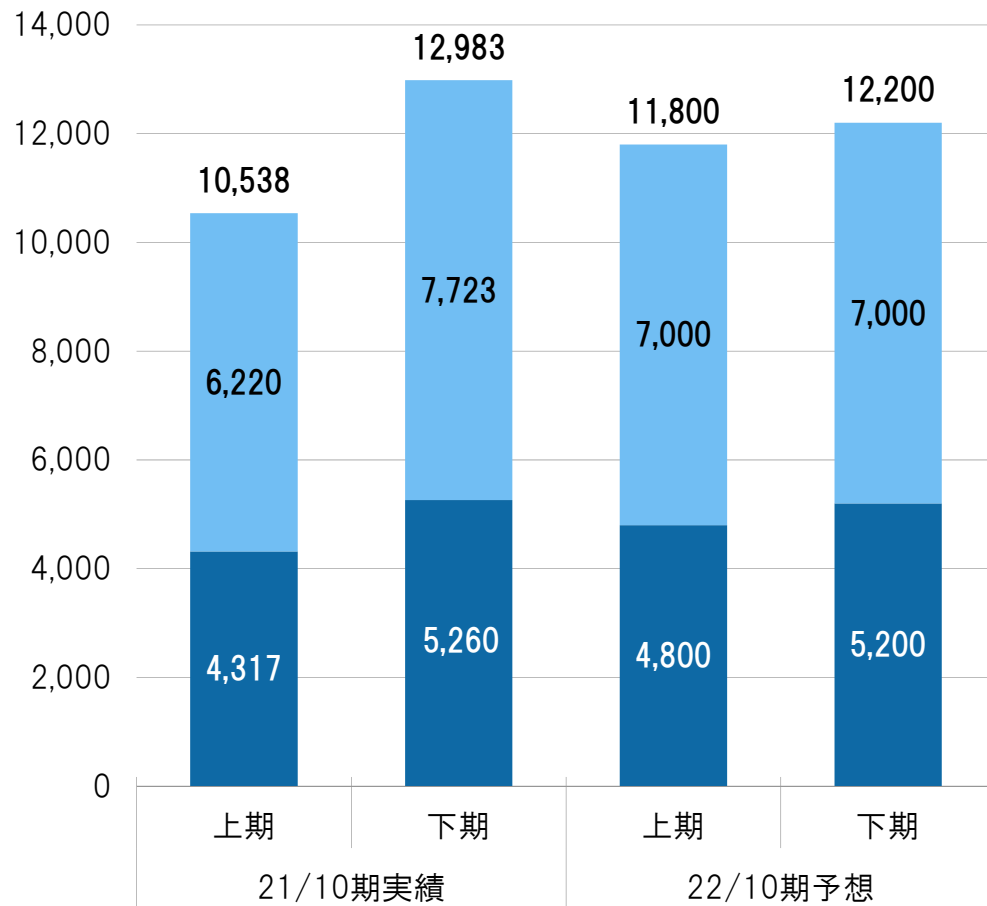
※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

Copyright© 2021 OHARA INC. All Rights Reserved.

## 売上高

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業

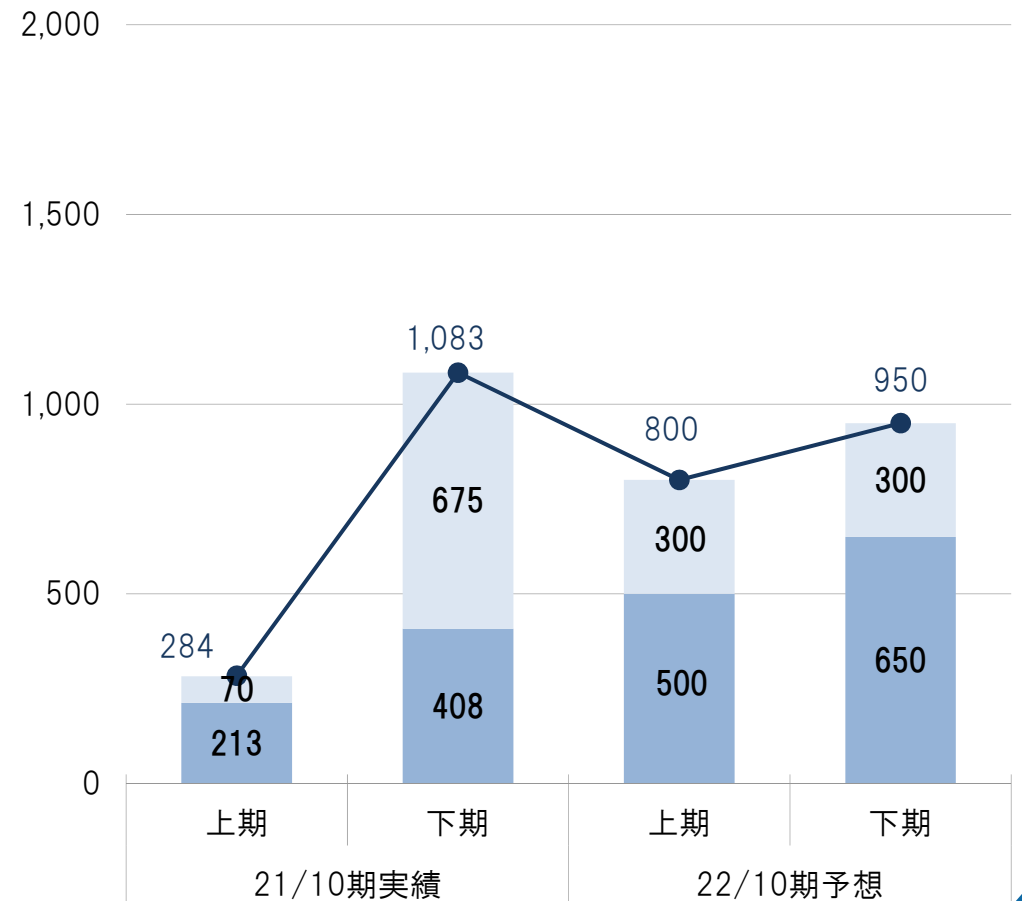
(単位:百万円)



## 営業利益

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業 ● 合計

(単位:百万円)



光学ガラス需要は、ミラーレスカメラ向け交換レンズ需要の増加に伴い堅調に推移  
資源高や半導体不足といった下振れリスクが懸念点

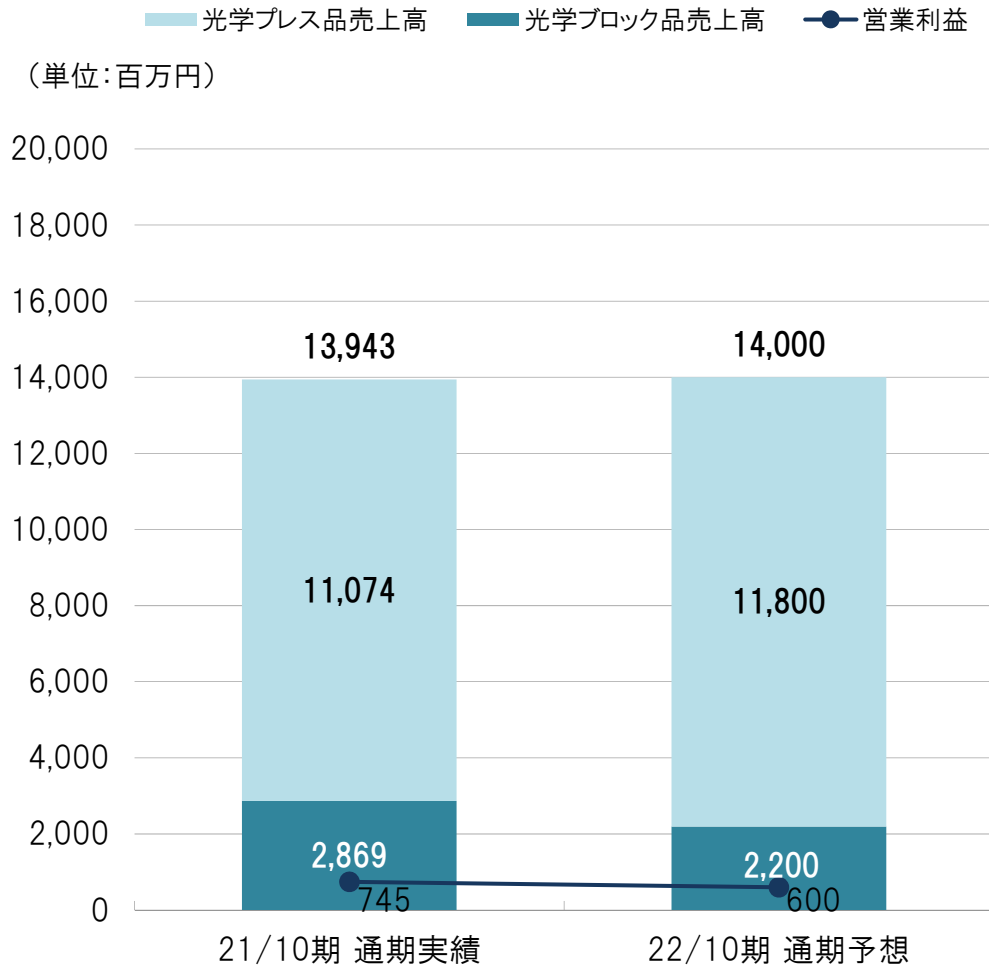
## 事業環境

- デジタルカメラ市場は、コロナの反動増に加え、ミラーレスカメラ向け交換レンズのラインナップ拡充により堅調に推移する見込み
- 車載カメラなどの分野では、高精細化の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み
- 資源高や半導体不足といった業績の下振れリスクがある

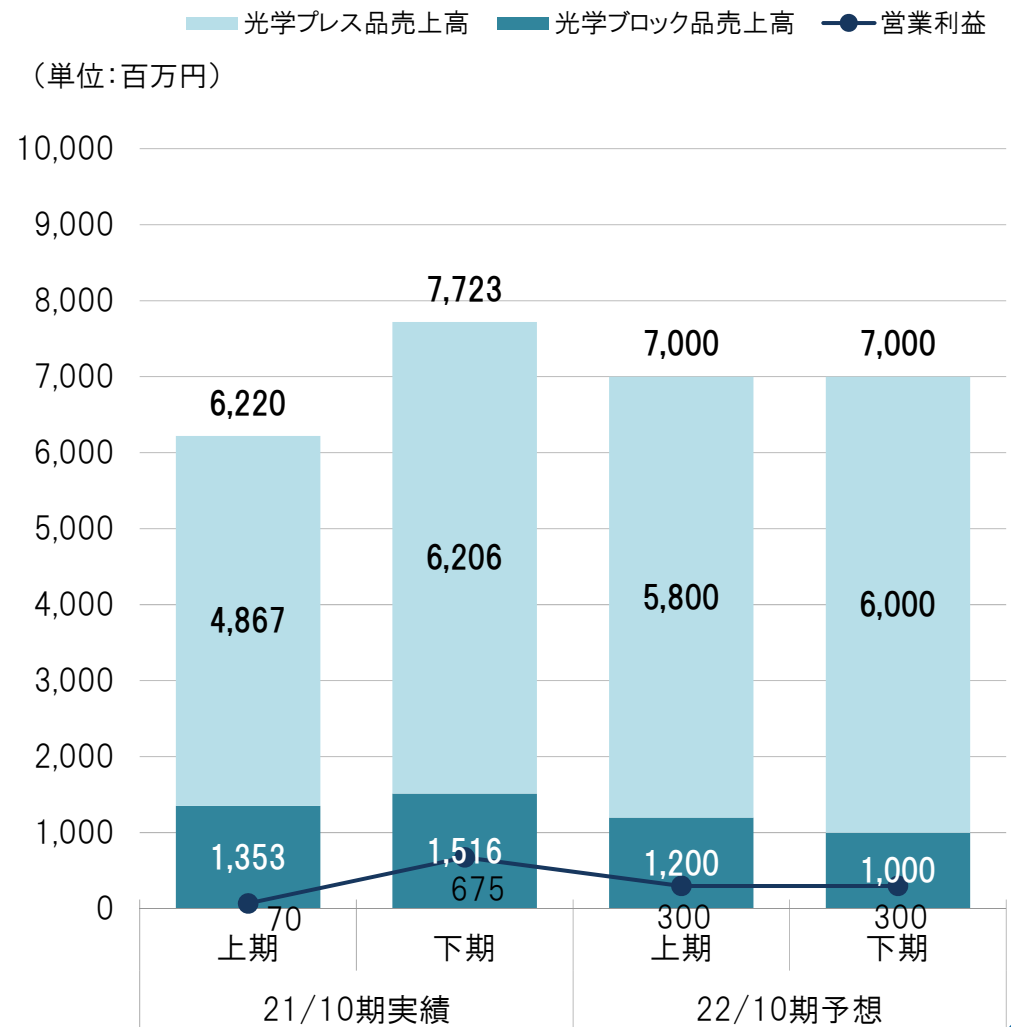
## 当社状況

- デジタルカメラ向け光学ガラスの需要は、ミラーレスカメラ向け交換レンズ需要の増加に伴い堅調に推移する見込み
- 車載レンズ等の成長市場で拡販活動を継続
- マレーシアの感染拡大及び中国の電力制限による工場稼働制限は改善し、22年10月期への影響は限定的

## 通期対比



## 半期推移



## 半導体露光装置向けガラスの需要が堅調に推移する見込み

### 事業環境

#### ■露光装置市場

半導体露光装置、FPD露光装置ともに堅調に推移する見込み

#### ■光通信市場

第5世代移動通信システム(5G)の環境整備に向けた設備投資が進展する見込み

### 当社状況

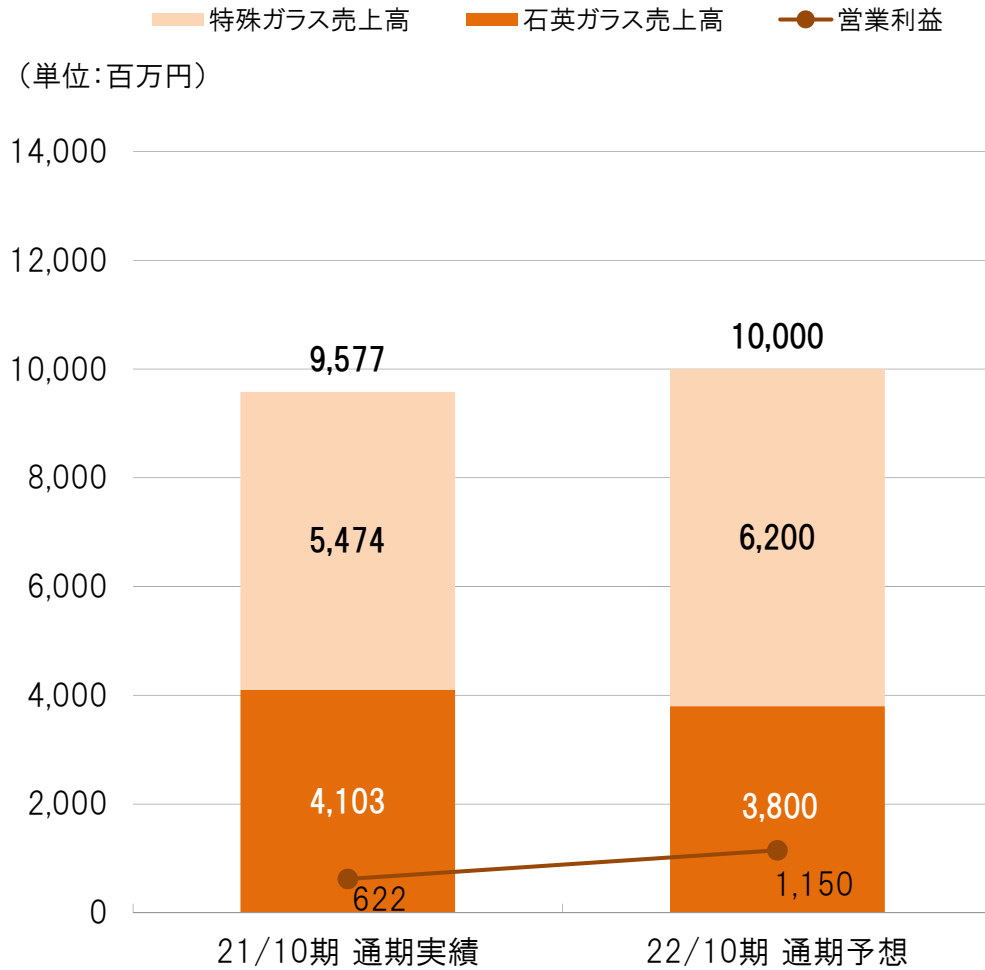
■半導体露光装置向け(i線向け)高均質ガラス、石英ガラスの需要は旺盛な半導体需要を受け堅調に推移する見込み

■FPD露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスの需要は、堅調に推移する見込み

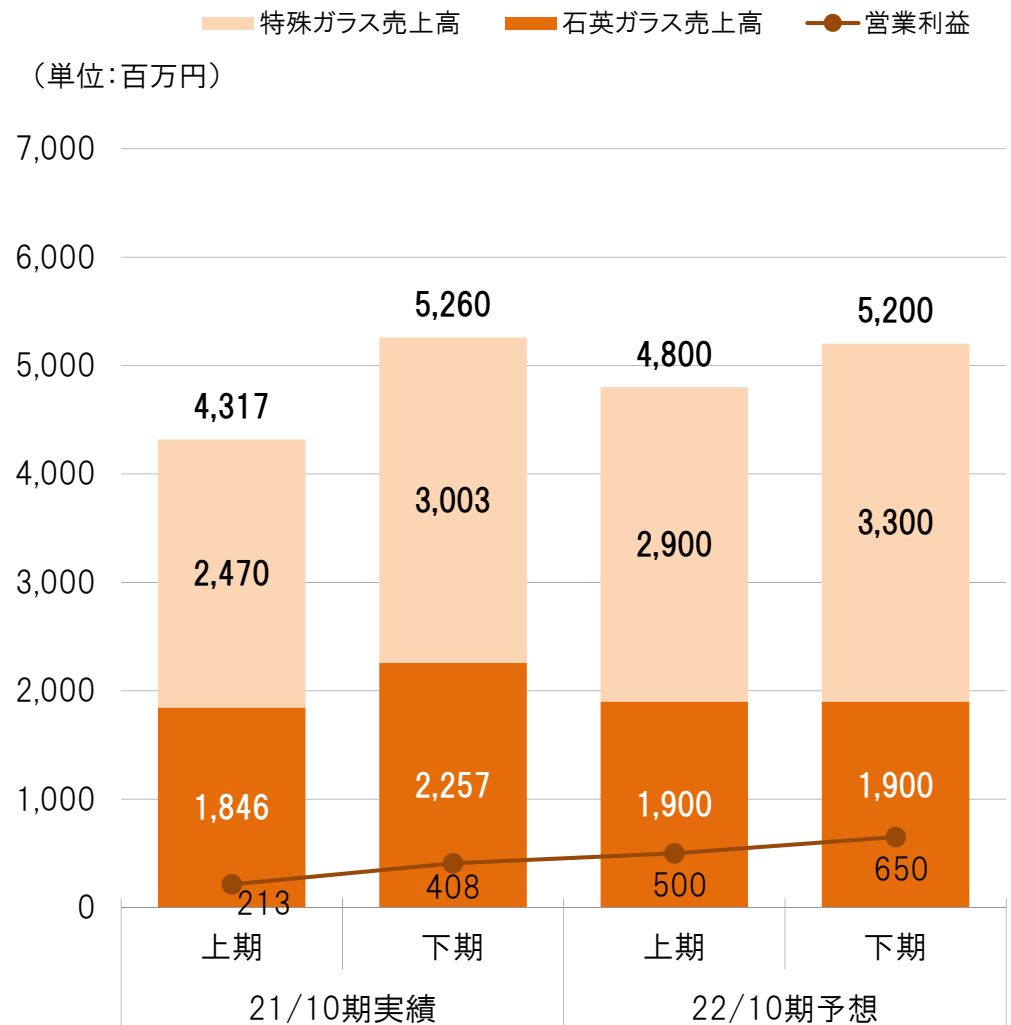
■光通信機器向けガラス素材「WMS™-15」の需要は、米中摩擦の影響を受け弱含みで推移する見込み

■「ナノセラム™」は、スマートフォン用途への採用に向けた取り組みを継続

## 通期対比



## 半期推移

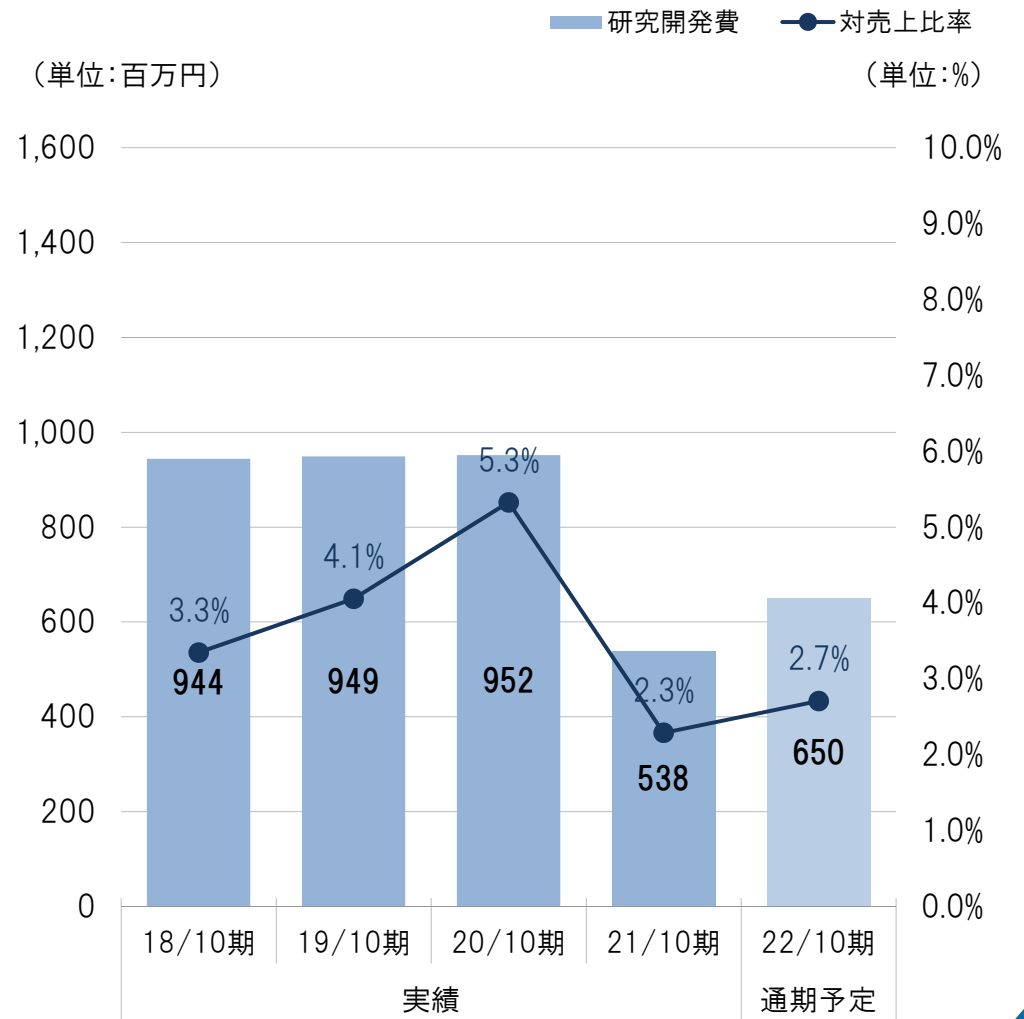
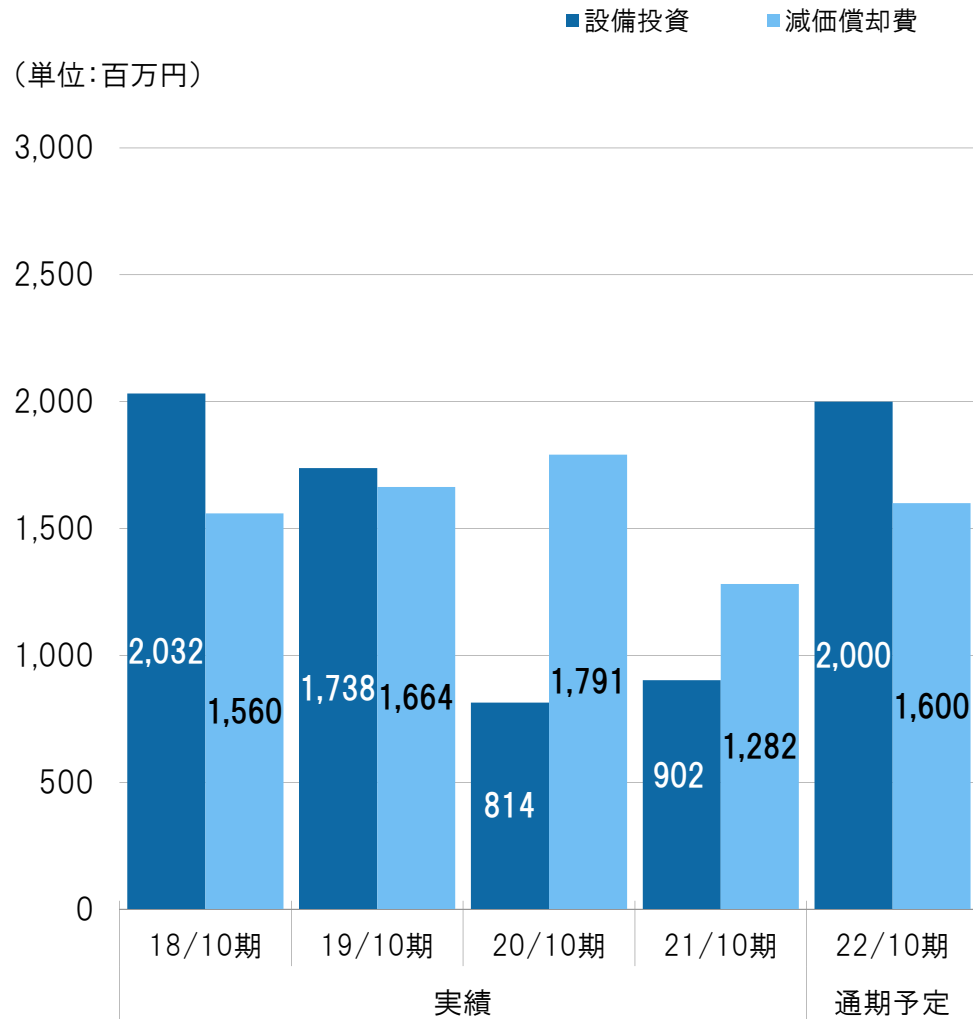




# 設備投資、減価償却費、研究開発費

## 設備投資、減価償却費

## 研究開発費



# 長期ビジョン2035 中期経営計画の修正

## 長期ビジョン策定の背景

- 1935年に東京・蒲田で創立したオハラは、2035年で創立100年
- 未来の社会でも必要とされる企業となるための指針として、「長期ビジョン2035」を策定

## 長期ビジョン2035の概要

- 「価値創造モデル」及び「サステナビリティ基本方針」を策定
- 「長期ビジョン2035」とは、「価値創造モデルの実践により、コーポレート・メッセージを実現する」こと
- 先行き不透明で予測困難な時代、変化の後追いではなく、自ら主体的に変化する企業へ
- 中長期の視点で社会課題解決、企業価値向上に取り組み、サステナビリティを実現

## コーポレート・メッセージ

### ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

ひかる素材で、未来をひらく



オハラが願う  
未来・社会の姿

安心して快適な生活。  
創造と希望にあふれた社会。  
健やかな地球。

オハラの  
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、  
多様なパートナーとともにかたちにするので、  
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

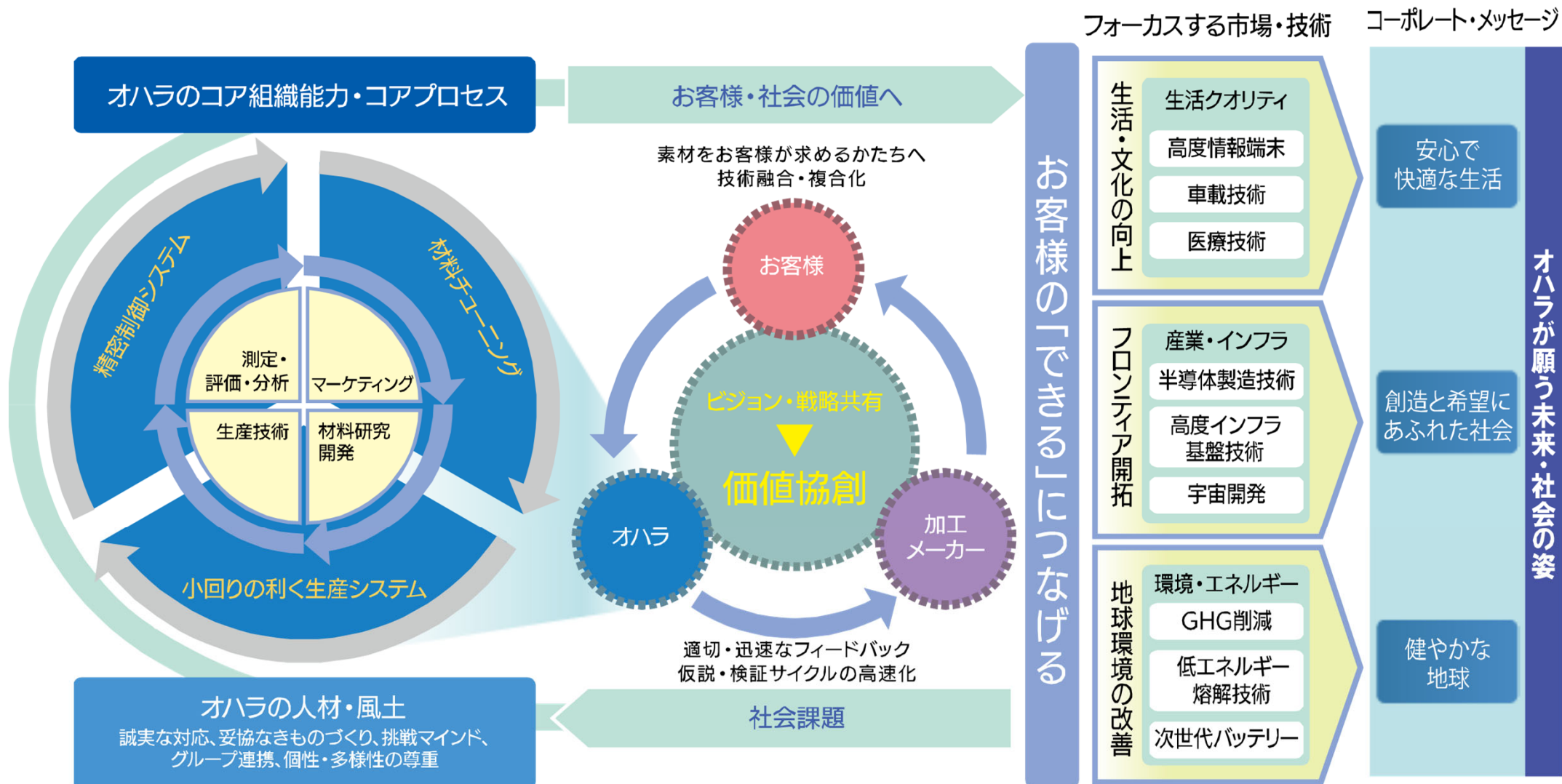
オハラの提供価値

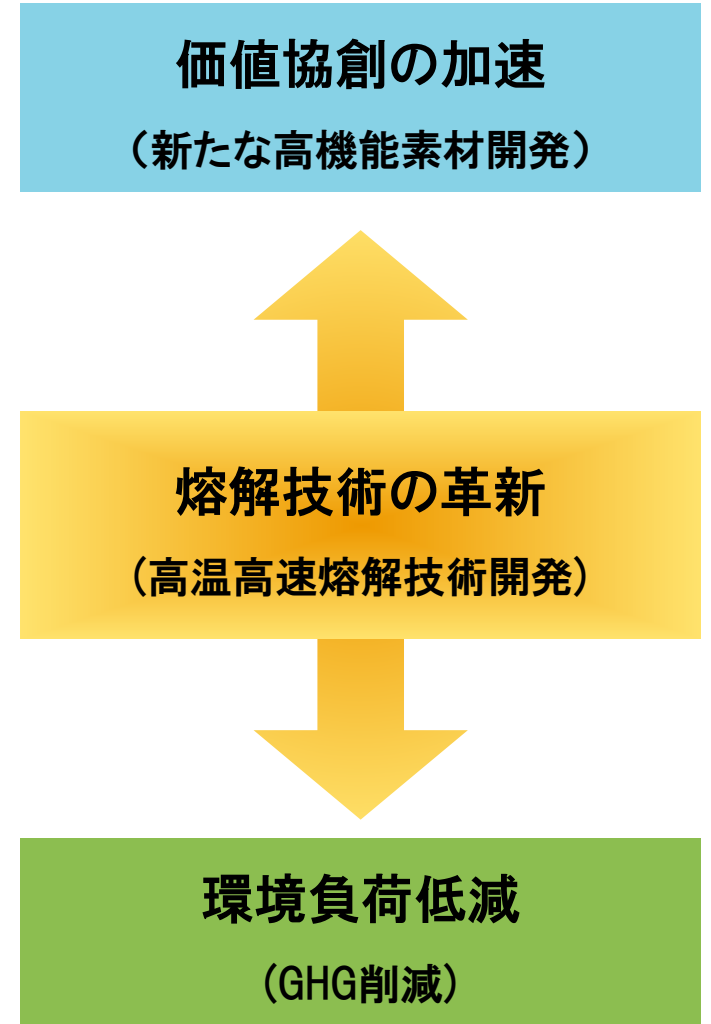
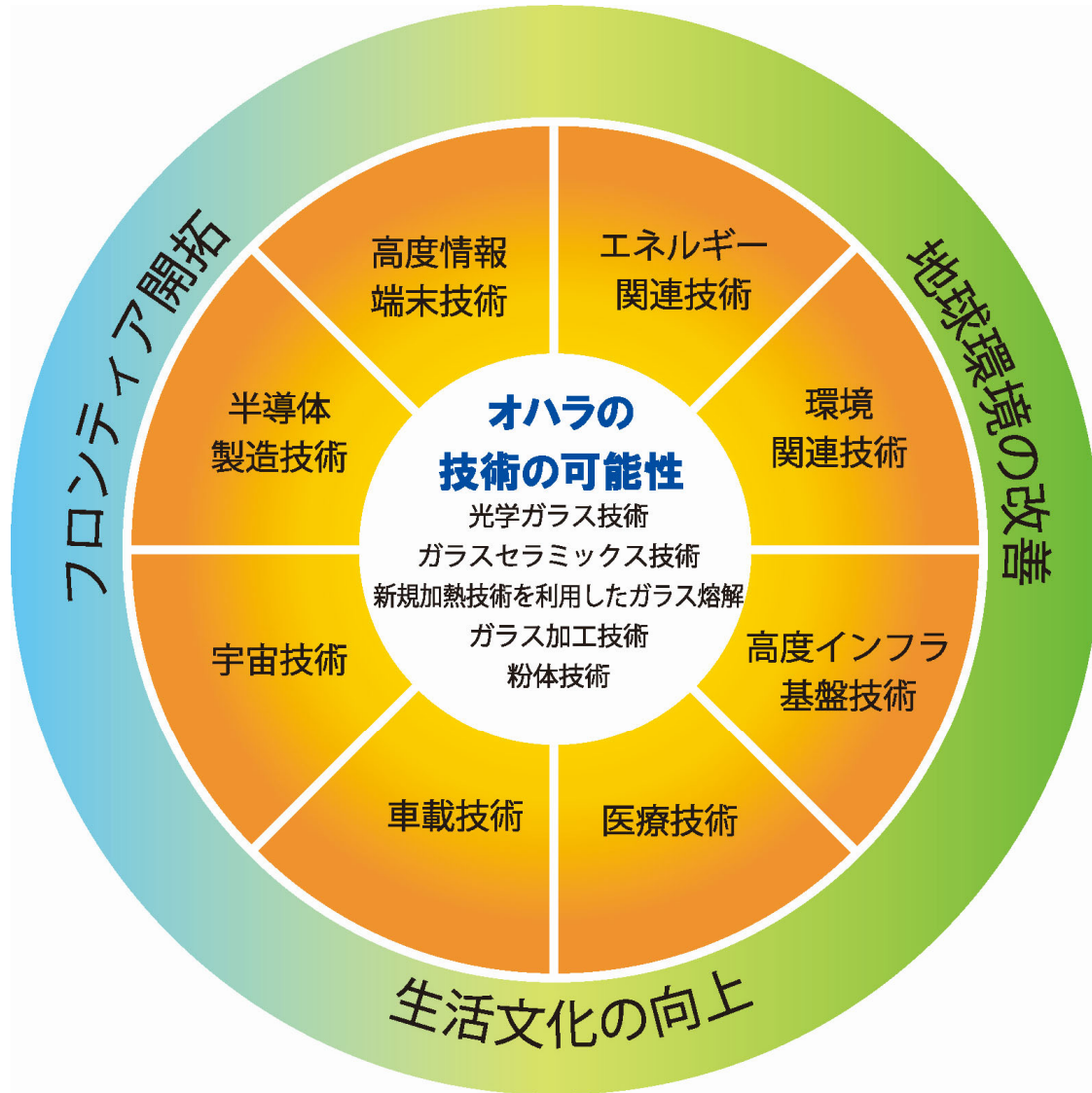
ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う  
妥協なきものづくり  
挑戦のグッドサイクルを回す  
All OHARAでいく  
互いに認め合い、成長しよう

## ブランドスローガン「ひかる素材で、未来をひらく」

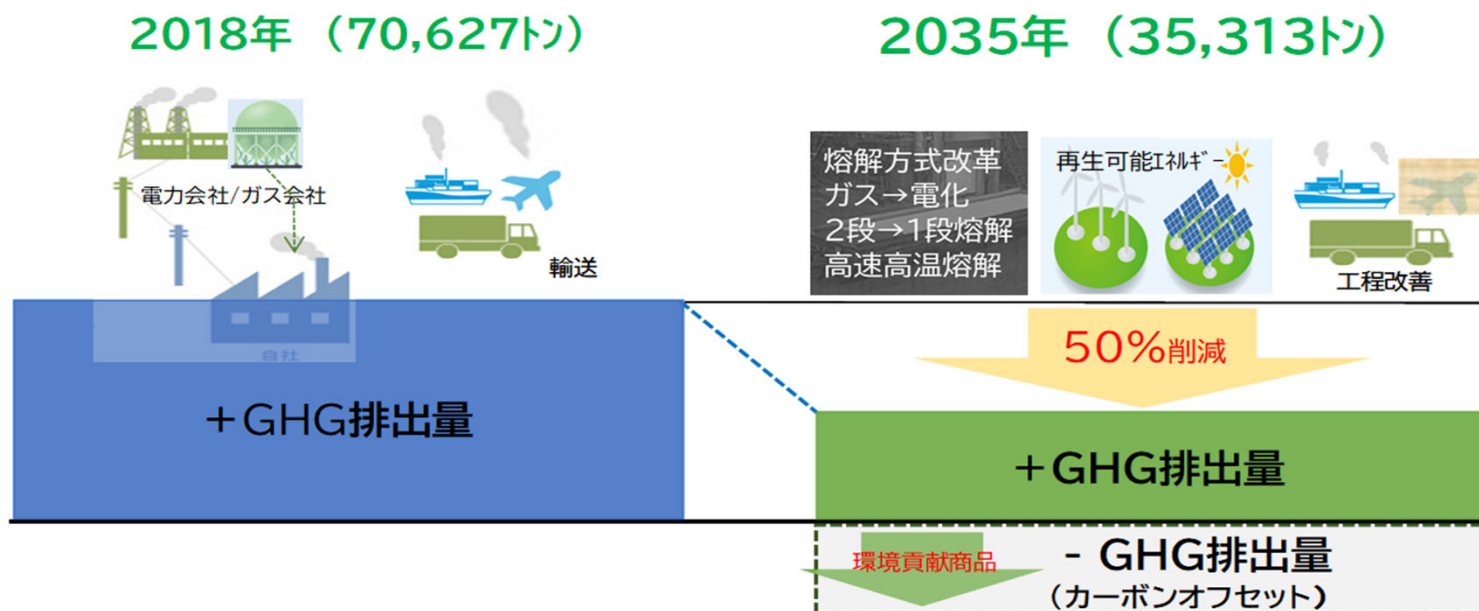




## サステナビリティ基本方針

オハラグループは、経営理念・コーポレートメッセージのもと、より良い社会の実現に貢献する「ひかる素材」を創り、ステークホルダーとの信頼関係から生まれる協働・協創により「未来をひらく」ことで、社会の持続的な発展に貢献します。

## GHG削減目標



## 中期経営計画 修正の背景

- 2021年10月期にスタートした中期経営計画は、コロナ禍により落ち込んだ業績回復を最優先事項とし、事業構造の立て直しと財務体質の改善を推進
- 1年目の業績は、概ねコロナ前(2019年10月期)の水準まで回復
- 長期ビジョン2035策定も踏まえて、中期経営計画の内容を一部更新

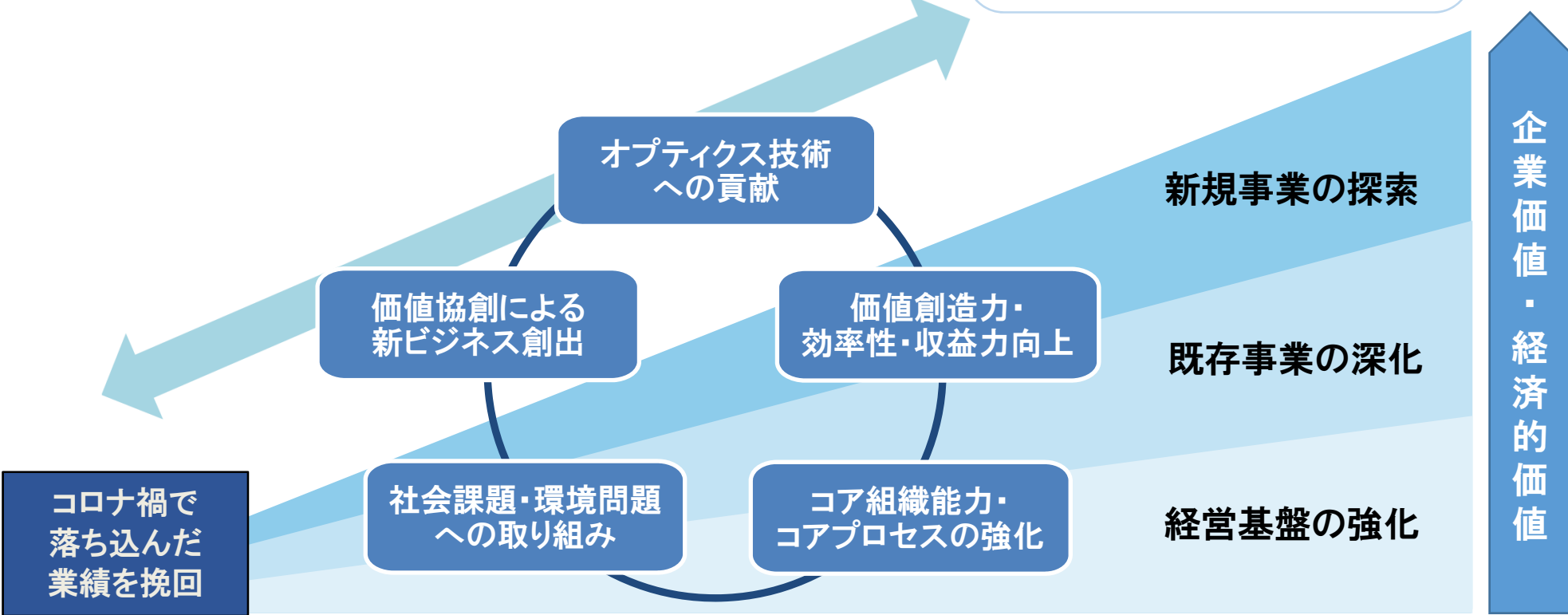
## 中期経営計画 修正の概要

- 長期ビジョン2035の実現に向けて、次の5つの改革ポイントを軸に、当社グループの戦略を再構築  
「オプティクス技術への貢献」「価値協創による新ビジネス創出」「価値創造力・効率性・収益力向上」  
「コア組織能力・コアプロセスの強化」「社会課題・環境問題への取り組み」
- 2035年までの15年間を、3年毎の中期経営計画×5つのフェーズで推進
- 進行中のフェーズ1は、価値協創の強化、及び環境課題に取り組み、フェーズ2の成長に向けて収益基盤を整える
- 2023年10月期の財務指標について、売上高の目標を250億円から265億円へ修正



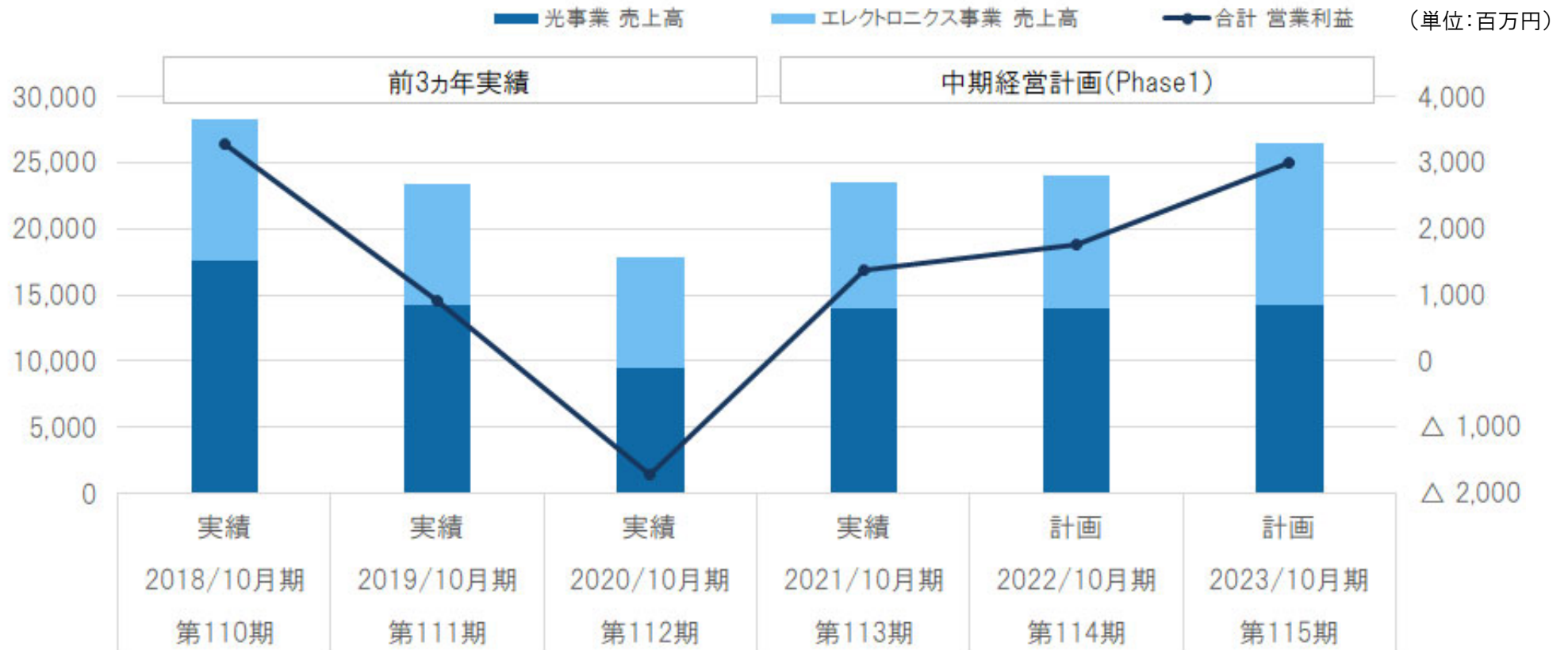
**ブランドスローガン**  
ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う未来・社会の姿  
安心して快適な生活。  
創造と希望にあふれた社会。  
健やかな地球。



## 財務指標(2023年10月期)

■ 売上高265億円以上 営業利益30億円以上 ROE6.5%以上



## Appendix(参考資料)

# 21/10期業績予想修正のまとめ

## 通期業績予想

(単位:百万円)

	期首予想 (20/12/15)	修正予想 (21/03/12)	修正予想 (21/09/10)	実績 (21/12/15)
売上高	21,700	21,700	22,800	23,521
光事業	11,300	11,900	13,400	13,943
光学プレス品	9,200	9,600	10,700	11,074
光学ブロック品	2,100	2,300	2,700	2,869
エレクトロニクス事業	10,400	9,800	9,400	9,577
特殊ガラス	7,300	6,300	5,400	5,474
石英ガラス	3,100	3,500	4,000	4,103
営業利益	1,200	1,200	1,300	1,368
光事業	170	290	650	745
エレクトロニクス事業	1030	910	650	622
経常利益	1,300	1,300	1,600	1,733
純利益(親会社株主に帰属)	600	600	1,100	1,460
為替レート 円/1USD	期中平均 105.00	期中平均 105.00	期中平均 105.00	期中平均 108.22
円/1EUR	125.00	125.00	125.00	129.15
年間配当金(円)	10.00	10.00	15.00	15.00

## 四半期推移

(単位:百万円)

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績
売上高	4,862	5,675	6,497	6,486
光事業	2,946	3,274	3,710	4,012
光学プレス品	2,314	2,553	2,971	3,235
光学ブロック品	631	721	739	777
エレクトロニクス事業	1,916	2,400	2,786	2,474
特殊ガラス	1,030	1,440	1,581	1,421
石英ガラス	886	960	1,204	1,052
営業利益	4	280	706	377
光事業	△45	116	417	257
エレクトロニクス事業	50	163	289	119
経常利益	98	403	767	464
純利益(親会社株主に帰属)	△39	331	543	624

中国  
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本  
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国  
Ohara Corporation



ドイツ  
OHARA GmbH



香港  
小原光學(香港)有限公司



マレーシア  
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾  
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）  
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
 創立：1935年(昭和10年)10月1日  
 資本金：58億5千5百万円  
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売  
 従業員：連結1,462名(単体438名) (2021年10月31日時点)  
 発行済株式総数：25,450,000株  
 株主数：10,079名 (2021年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員  
齋藤弘和

## 役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役常務執行役員	青木 哲也	事業部統括(営業・マーケティング統括)
取締役常務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統括兼材料生産センター長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	高木 晴彦	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	飯塚 良成	

## 大株主

(2021年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	877	3.6%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	JP MORGAN CHASE BANK 385781	141	0.6%
10	(株)日本カストディ銀行(信託口)	119	0.5%

※持株比率は、自己株式1,098千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

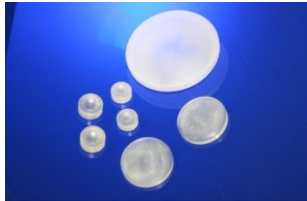
- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパ用ハイホモガラス( $\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$ )量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月: 台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始  
5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始  
11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始  
4月: ISO14001認証取得  
10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立  
6月: 大規模連続熔解開始  
12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファ이버用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始  
9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立  
8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退  
3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始  
12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始  
12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月: NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加  
8月: 非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用  
2月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用  
3月: 足柄光学株式会社を解散
- 2019 1月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2020 3月: オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち

## 主要製品

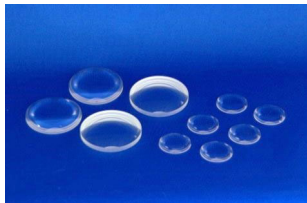
### 製品カテゴリ

#### 光学プレス品

##### レンズブランク



##### 研磨プリフォーム (レンズ加工品)



##### ガラスモールドレンズ (GMO)

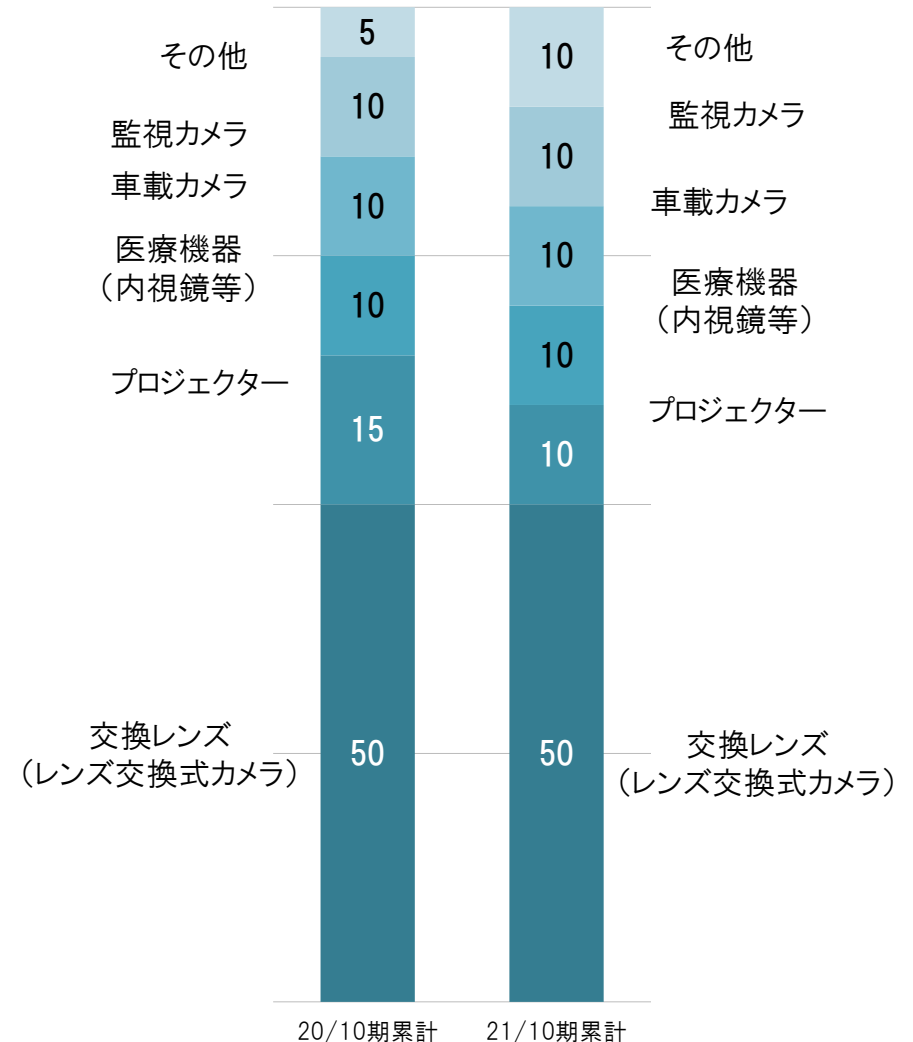


#### 光学ブロック品



※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

## 売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定



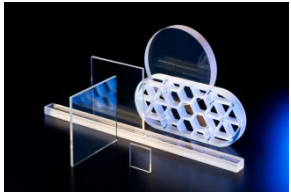


## 主要製品

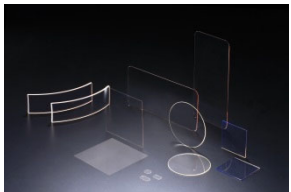
### 製品カテゴリ

#### 特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス  
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度  
クリアガラスセラミックス  
ナノセラム™



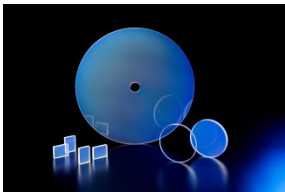
リチウムイオン伝導性  
ガラスセラミックス  
LICGC™



線用高均質性  
光学ガラス



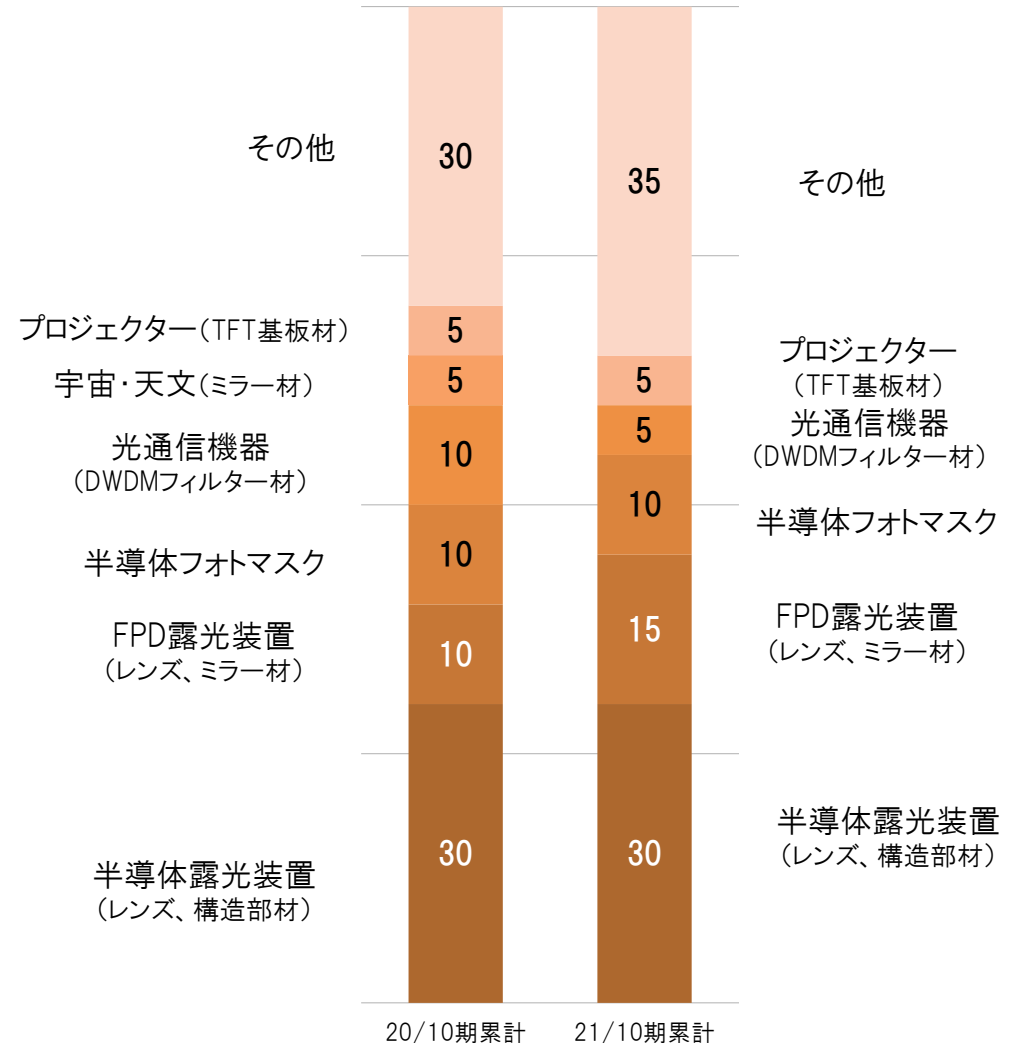
光通信機器向け  
ガラス素材  
WMST™-15



#### 石英ガラス



## 売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定



# 光学ガラスの代表的な製造工程



## 経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

## コーポレート・メッセージ

## ブランドスローガン

### ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う  
未来・社会の姿

安心で快適な生活。  
創造と希望にあふれた社会。  
健やかな地球。

オハラの  
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、  
多様なパートナーとともにかたちにするので、  
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う  
妥協なきものづくり  
挑戦のグッドサイクルを回す  
All OHARAでいく  
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。